

早稲田大学大学院 教育学研究科
専門職学位課程 入試問題の訂正内容

<2018年4月入学 教育学研究科・高度教職実践専攻 >

【 一般入試（後期日程）：筆記試験（教職教養）】

●問題冊子3ページ 問4（1）イ）

（誤）

反応するかを観察法である

（正）

反応するかを観察する方法である

以上

2018年度 早稲田大学大学院教育学研究科

高度教職実践専攻入学試験

(一般入試(後期日程):筆記試験(教職教養))

問 題 用 紙

注 意 事 項

1. 問題冊子および解答用紙は、試験開始の指示があるまで開かないこと。
2. 問題は、2～4ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 受験番号および氏名は、試験が開始されてから、解答用紙の所定欄に正確に記入すること。なお、解答用紙が複数枚ある場合には、それぞれの所定欄に正確に記入すること。
受験番号は以下の例のとおり、数字で記入すること。

(例) 11001 番 ⇒

万	千	百	十	一
1	1	0	0	1

4. 解答はすべて解答用紙の所定欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
5. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答を止め、筆記具を置くこと。終了の指示に従わずに解答を続けた場合は、答案の全てを無効とするので注意すること。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。
7. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

問1. 次の文章は、学校教育法第21条の一部である。(①) ~ (⑤) に当てはまる語句をそれぞれ解答欄に書きなさい。

義務教育として行われる普通教育は、教育基本法（平成十八年法律第二十号）第五条第二項に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

一 学校内外における社会的活動を促進し、自主、自律及び協同の精神、(①)、公正な判断力並びに公共の精神に基づき主体的に(②)の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

二 学校内外における自然体験活動を促進し、(③)及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。

三 我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と(④)を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の(⑤)と発展に寄与する態度を養うこと。

問2. 各問の五つの出来事を年代順（左から古い順）に並べた場合、(①) ~ (③) に入る記号を書きなさい。

- (1) ア. 教学聖旨内示 イ. 教育勅語公布 ウ. 学制公布
 エ. 改正教育令公布 オ. 小学校令公布

ウ — (①) — エ — (②) — (③)

- (2) ア. 教育評議会設置 イ. 臨時教育会議設置 ウ. 実業学校令公布
 エ. 文政審議会設置 オ. 大日本帝国憲法公布

(①) — ウ — (②) — ア — (③)

- (3) ア. 教育刷新委員会設置 イ. 教育委員会制度創設 ウ. 教育刷新審議会設置
 エ. 旧教育基本法公布 オ. 臨時教育審議会設置

(①) — (②) — イ — ウ — (③)

問3. 以下の文章は、次期中学校学習指導要領（平成29年3月公示）の「総則」の「第1 中学校教育の基本と教育課程の役割2(1)」である。空欄（①）～（③）に入る最も適した語句を解答欄に書きなさい。

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを（①）して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との（②）を促す教育の充実に努めること。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の（③）など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮すること。

問4. 以下の3つの問いについて、それぞれにあてはまる記号を解答欄に書きなさい。

（1）次のうち、Strange Situationに関する説明として誤っているのはどれか。

- ア. エインズワースが考案した観察法で、愛着を3タイプに分類した。
- イ. 子どもが養育者と遊んでいた実験室に、知らない大人が入室し、養育者が退室し、再び入室する等の状況で、子どもがどのように反応するかを観察法である。
- ウ. 養育者の退室時には激しく泣く等、困惑し、再入室時には、養育者を叩くなど攻撃的になるのが攻撃型である。
- エ. いつもと違う部屋の状況にも変化はなく、養育者が退室しても泣かず、再入室しても避けてしまうのは回避型である。
- オ. 養育者の退室時には後を追ひ、ネガティブな感情を表出し、再会時に安堵するのは安定型である。

（2）完全習得学習（マスタリー・ラーニング）で形成的評価後に行われる教育活動と、最も関連が低いものはどれか。

- ア. 試行錯誤学習 イ. 補充学習 ウ. 学習分岐 エ. 再学習 オ. 学習調整教授

（3）心理検査の標準化の説明として、誤っているものはどれか。

- ア. 検査の目的に沿った結果につながるか、妥当性を検討する必要がある。
- イ. 検査項目を決め、予備調査を行い、項目を再検討する。
- ウ. 多くの被験者に実施し、統計的に処理し、尺度を決める。
- エ. 期間をあけて同じ検査を二度実施し、結果の相関を見て、妥当性を検討する。
- オ. 実施者や採点者によって、結果が異ならないように信頼性が求められる。

問5. 以下の(A)～(D)のそれぞれの領域について、いずれかの語句を選び、その説明を解答欄に書きなさい。なお、解答用紙の該当欄に、選んだ語句をそれぞれ記入すること。

領域 (A)

- ☐ NCLB 法
- ☐ 資質・能力

領域 (B)

- ☐ 後期中等教育の拡充整備について (答申) (1966 年)
- ☐ 知行合一

領域 (C)

- ☐ プログラミング的思考
- ☐ パフォーマンス評価

領域 (D)

- ☐ 語彙爆発
- ☐ 自己決定理論

2018年度 早稲田大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻入学試験
(一般入試(後期日程):筆記試験(教職教養) 解答用紙)

受験番号					
氏名					

採点欄

問1	①	②	③	④	⑤
問2	(1)	(2)	(3)		
	①	①	①		
	②	②	②		
	③	③	③		
問3	①	②	③		
問4	(1)	(2)	(3)		

この右の枠内には、何も書き込まないでください。

--

--

--

--

問5		
領域(A) 選択語句名		
説明		
領域(B) 選択語句名		
説明		
領域(C) 選択語句名		
説明		
領域(D) 選択語句名		
説明		

--

--

--

--